

2022年度 第I回WS 参加者の皆さまからのご質問への返答

【ご質問】素晴らしい実践の御紹介をありがとうございました。児童の自己評価と教師の見取りが 違う場合の個別指導はどのように行っていらっしゃるかお聞きしたいです。(①タイミング、時間、③場所、②方法等)

【奥平先生より】

①児童の自己評価のタイミング

・やりとり（パフォーマンステスト後すぐ）児童と共創したクラス・ルーブリックを（A4半分ほどの大きさに印刷）して、やりとりPテストが終わったら手渡し、自己採点を記入させ、回収する。

※担任・学年英語専科なので、休み時間や放課後に未提出の個への声掛けができる。

・聞くことは、ペーパーテストなので、一度回収する。その後に、その回答用紙を全て印刷する。次の外国語の時間に、コピーを児童に配布（書き直しができないようにするため・ロイロなどがあればデジタルでもできる。）採点基準を児童と確認し、自己採点を行わせる。

※知識・技能の語句や表現の観点では、4点満点なら、Aは何点かなど。5点の時は、4 & 5点かAという場合もある。思考・判断・表現については、これからの挑戦になる。詳細は、今後機会があればお伝えする。

②児童と教師のそれぞれの評価のすり合わせ方法（個別指導）

・やりとり：Pテストのあとに児童が自己評価をした紙に、教師は別の色のペンで評価をつける。（私は、ピンクの蛍光ペンで行う）。その用紙を、授業の始まりに一人一人に手渡しで返却する。（他の教科のテストと同じ。）その後、予め分けておいた、すり合わせが必要な児童は（3～5人程度）1人ずつ呼んで話す。例：自己A・教師B、自己B・教師A、など。

私の評価の根拠は、一人一人の発話内容をその場で簡単にメモを残し、それを見せている。（児童は英語が読めないが。）

・聞くこと：ペーパーテストの返却方法はやりとりと同じ。採点基準を共通視点として話したので、個別で話が必要な子は少ない。（知識・技能の観点だったため）

③場所：各学級の教室

④その他：所要時間 5分程度

【ご質問】質問が2つあります。1つ目は、子どもたちが聞き方のスキルは十分身に着けているが、聞いてわかったことに感想などをもつということは十分に身につけていないということをおっしゃっていました。その手立てとして①中学年から出来ることがあるとしたら、どんなことがあるか教えて頂きたいです。2つ目は、振り返りシートの中にあった、②マイチャレンジポイント、とはいったいどういう観点で子どもたちは振り返るところなのか教えて頂きたいです。

① について：現在は、学級担任、学年英語専科という立場なので、他学年の授業に関わっていないが、2年前までは、3年間英語専科だった。その時は3～6年生を指導していた。当時、*Let's Try!*を使ってリスニングをしていた。その際には、以下の事を聞く時のポイントとして、聞く目的、聞き方のポイントとしていた。

・「くらべっこリスニングをしましょう」「Let's do listening quize. Let's do くらべっこリスニング」と言って始めていた。比べる対象として「自分と似ている子いるかな？お友達（家族）のだれかさんと似ている子いるかな？」と声をかけていた。（聞く題材や学級の実態による。いじめにつながらないように。）

「いない」「全然ちがった」と言っても、「そうなのだ。〇〇さんは、どうなの？（英語または日本語）」などと聞き、その子が回答を言えたら（日本語でも英語でも）、その子の回答に似ている人やMe, too.の人をクラスで挙手させ「クラスには似ている子いるね。」と言う。いない場合は、「スペシャル・オンリー・ワンだね」といって拍手。など。

② マイ・ミッション（自己課題）の訂正忘れて、混乱を招き申し訳ありません。発表内でも話したが、マイ・ミッションについては、単元の開始時、途中など、立てるタイミングを2回ほど与えているが、立てることができる児童はまだ多くいない。この単元を通して、ゴールの活動に向かう中で、「特に自分ががんばりたいこと（身につけたいこと）」のような視点である。

※子供が書いた例

①やりとりに自信がないので、まずは相手の言ったことに英語であいづちや反応をすることからがんばる。

②話す事に自信がないけど、まずは、相手に聞こえやすい声でいう事はできるようになる。
など。